

評価計画				自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策
重点目標	具体的目標	具体的な取組事項	評価指標	評価	取り組み状況と課題	評価	意見	
生徒一人一人の理解に努め、生徒の基本的生活習慣の確立を図るとともに、自立して生き抜く力を養う	教職員の生徒理解を深める	いじめ防止委員会、各種アンケート(QU、人権等)、中学校情報共有、個別面談	委員会開催回数、評価アンケート	B	いじめ防止委員会週1回計37回開催。「教員との対話、相談しやすさ」QSE+：生徒79、保護者80。新入生支援シートの導入、無記名持ち帰り式のアンケートを新たに実施。近隣地区PTAも再開した他、県外生徒募集に合わせて現地保護者面談、地区PTAを実施。	B	・1年生に学籍異動があったのは残念。本人、保護者とも、環境や学校生活について十分に納得して入学できるような体制づくりが必要。 ・寮生の外泊許可条件の拡大は良かった。有意義に運用して欲しい。 ・まち親さんの助力は多大。まち親と生徒との交流の程度差により、個人の負担感がないような配慮を継続すること。 ・支援シートや持ち帰りアンケートなど生徒理解の新しい試みは評価したい。	・教育相談コーディネーターの配置など、校内の教育相談体制を見直し、生徒が相談しやすい組織づくりを行う。 ・地区PTAや保護者懇談会は継続して実施。各行事等を、保護者と連携が取れる機会として意識し、また効果的な情報発信等、保護者と協働した生徒の育成体制を強化する。 ・生徒の半数を占める寮生の生活保障、学習支援の積極的な改善に取り組む。
	基本的生活習慣の確立を図る	あいさつ運動、登校指導、服装指導、清掃指導、寮生活指導	評価アンケート	B	「規律指導」QSE+：生徒80、保護者82。生徒の自主性尊重育成のため寮生の外泊許可を実施。あいさつは良好、少数の女子の身なりを継続指導。整理整頓、持ち物管理ができない生徒が多い。			
	心身ともに健康な生徒の育成を促す	朝読書、読書推進、スクールカウンセラー、健康観察、人権研修、寮生活指導	評価アンケート、出席率、皆勤率	B	QSE+：「図書館利用しやすさ」生徒86。「健康支援」生徒78、保護者68。「人権教育指導」生徒91、保護者70。出席率97.7%、皆勤率45.2%。まち親さんに大いに助けられている。月2回のカウンセラーはフル稼働で、心のケアが必要な生徒は多い。			
生徒の進路実現のため、教員の授業力・人間力の向上に努め、学力の向上を図る	授業を改善し、学習に取り組む姿勢の向上を図る	授業規律、ICT活用、授業研究会、夜勉	授業評価、家庭学習時間調査	C	QSE+：「授業充実」生徒79、保護者66。全科目で新指導要領に対応した研究授業を実施。試験期間中の学習時間は平均150分。日常の学習習慣づくりのための仕組みづくりが課題。3年生で実進路に対応した授業を望む声がある。	C	・入試制度も保護者世代が体験したものとは大きく変わってきた。引き続きPTAと連携した進路理解の取り組みを望む。 ・様々な進路希望の生徒が混在する中で、この特色を良い方向に生かす工夫を。 ・大学入試も数年後に大きく変わる。スピード感を持った体制づくりと、そのPRに積極的に取り組まれることを大いに期待したい。	・高校生として身につけるべき全教科学力と、受験科目学力の育成について、授業の持ち方や補習の在り方など、生徒の進路実現をかなえる方策を検討する。 ・家庭学習習慣の確立について、学習課題の課し方など改善する。 ・進学ゼミを部活動と同じレベルで活動できる体制をつくる。 ・新指導要領や新しい大学入試に対応した教育課程を研究し、積極的な授業改善に取り組み指導力の向上を図る。 ・キャリア教育に関わる校内行事への保護者の参加について検討する。
	計画的な進路指導により共通理解をもって指導する	進路検討会、コース選択検討会、進学ゼミ、個別教科指導、面接指導	評価アンケート	C	QSE+：「進路情報提供」生徒79、保護者77。進路行事をPTAと共に実施。早期の情報収集や情報提供、キャリア研究の時間確保が必要。進学ゼミを実効性のあるものにする体制づくりが課題。			
	教員研修を積極的に行う	校内研修、校外研修、教科研修	研修参加度	B	毎年のサービス・ハラスマント・情報モラル・人権研修にほぼ全職員が参加。新たな校内研修として、授業法研修、いじめ防止研修を実施した。校外研修については、全教員が平均2回程度参加した。県外先進校視察は学校としての参加は実施できなかった。			
地域を知り地域と連携することによって、魅力と活力ある学校づくりを推進する	地域に根差したキャリア教育を実践する	総合的な学習、ふるさと学、まちキャン	生徒レポート	B	1年生総合学習では、ふるさと学として地域・学校活性に関するグループ実践研究を実施。川本町以外での活動、まちキャンの改定を含め、3年間を見通したキャリア教育プログラムの構築が課題。	B	・授業や行事等での地域活動は根付いてきた。 ・部活動でもっと地域と連携することが、学校の魅力をより作り出すことにつながる。部活動経験者の保護者や卒業生(OB・OG)を積極的に学校に招き、生徒を指導してもらうなどの活動が、地域へのPRにもなり、学校の活力につながるのではないか。	・「まちごとキャンパス構想」を見直し、現在の課題解決に向けた新たな取組を設定する。 ・町内教育団体との合同会議への積極的な参加や、中学校との合同授業、授業の相互参観など企画する。 ・イベント催事だけでなく、年間をとおした地域の活動について情報を生徒に提供し、積極的な地域交流を促す。
	地域との連携を深める	地域系部活動、地域産業体験、地域意見交換会、まち親交流会	評価アンケート	A	QSE+：「地域連携・情報発信」生徒89、保護者82。外部団体主催「マイプロジェクト」を含め、三江線応援、まち親交流、公民館活動など生徒が自主的に活動を広げた。フェイスブックは週3～5回更新。マチコミメールを緊急連絡以外にも活用。			
	中学校との連携を深める	オープンスクール、学校説明会、部活動説明会、中高連携授業	新規説明会・連携授業開催数	C	オープンスクールには県内外64校、236名参加。人権教育授業は中学校にも公開。中高合同の英語授業実施。小学校で絵本読み聞かせ活動を新たに実施。連携交流の時間確保と調整が課題。			
部活動、学校行事、体験活動等を充実することにより、生徒の豊かな感性や知性を醸成し、自己有用感の向上を図る	部活動への加入を促進する	部活動紹介充実、地域系活動充実	部活動加入率	B	部活動加入率93.6%。部活動以外にも、地域系活動や生徒会、家庭クラブ活動でほぼすべての生徒が課外活動に参加している。部活動以外の課外活動参加への対応、進学ゼミとの両立などが課題。	B	・中学校との合同部活動をどの部でも実施するなど、積極的に企画してはどうか。 ・外部指導者として、地域人材を大いに活用する姿勢を。顧問と連携を取りながら指導をお願いできれば、個々の技術向上につなげていくことができる。 ・10周年記念事業については、引き続き募金を有効な方法で生徒の学校活動に活用して欲しい。	・地域系部活動のあり方を整理し、より活動しやすく魅力ある活動にするための改善方法を検討する。 ・部活動としてではなく、生徒が個別で地域活動に参加できる体制をつくる。 ・各部の卒業生が部活動現役生の指導に関わりやすい働きかけを検討する。
	部活動の実績を向上する	外部指導者確保、部活動コーディネーター導入	大会成績、評価アンケート	B	カヌー国体入賞・全国総体出場、吹奏楽全国コンテスト出場、自然科学部全国総文祭出場、写真部自然科学部H30総文祭出場権獲得。QSE+：「部活動活発」生徒84、保護者86。部員数のバランスや専門指導者の確保が課題。			
	創立10周年事業等の学校行事を主導的に運営する	PTA・卒業生会・後援会との連携	関係各会意見進捗状況	B	10周年記念式典他事業は、PTA・卒業生会・後援会他、地域の多大な支援により式典は無事実施。募金は目標額を達成。多目的集会室の整備、図書室の情報センター化、記念誌について継続実施中。			